教育研究業績書

2016年10月01日

所属：生活環境学科　　資格：准教授　　氏名：佐々　尚美

研究分野	研究内容のキーワード
建築環境工学,住環境学	温熱環境,個人差,高齢者,冷え症,環境共生,住まい方,快適感,温冷感,皮膚温
学位	**最終学歴**
博士（学術）,修士（家政学）,学士（家政学）	奈良女子大学大学院 人間文化研究科 生活環境学専攻 博士課程 修了

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 快適温熱環境の個人差に関する研究	単	2001年01月	奈良女子大学	
3 学術論文				
1. 高齢者の選択気温と設定気温下の人体反応特性（査読付き）	共	2012年6月	日本建築学会環境系論文集、第77巻第676号、pp. 475-479	佐々尚美、磯田憲生、久保博子 被験者は健康で標準体型の平均70才の高齢者男女57名であった。着衣量0.4clo、椅座安静状態にて、120分間気温をちょうど良いように調節する選択気温実験と、気温を23?33℃の８条件にて60分間曝露する設定気温評価実験を実施した。その結果、低温選択群は高温下にて他群より平均皮膚温は高く、いずれの気温でも他群より舌下温は高く、最高血圧は他群より高い傾向を示した。高温選択群は最も気温の影響を受け平均皮膚温が変化し、下腿皮膚温は低温下で特に他群より高く、最高血圧は最も低く、他群より冷えを感じる傾向を示し、最も体温調節能力の衰えを示した。
2. 和室の現状と居住者の意識から和室空間を考える	共	2012年	武庫川女子大学生活美学研究所紀要第22号	佐々尚美、竹原広実、梁瀬度子
3. 若齢女性における冷え感の改善に関する研究　-冬期における暖める部位の検討-（査読付き）	単	2010年11月	人間と生活環境、17巻2号、pp.49-55	身体の暖める部位の違いによる冷え改善効果を検討する為に、冬期に冷え性の女子大生を対象に、身体各部位（首、腰、腹、上腕、手先、脹脛、足先）に蒸気が出る温熱シートの使用及び非使用の8条件を実施した。被験者を気温25℃、50%、不感気流、着衣量0.4clo、椅座安静状態にて60分間暴露し、身体各部位の皮膚温及び温冷感、快適感、冷えの改善等の評価を測定した。その結果、「首」に使用時が各部位の皮膚温は高く、皮膚温差も最も小さく、身体各部位の温冷感も暖かい方が最も多く快適であった。冷えの改善度は、「首」が最も良く、次いで「腰」「腹」の順に評価が高かった。
4. 高齢者の選択気温からみた心理生	共	2010年09月	日本建築学会環境系論	佐々尚美、久保博子、磯田憲生

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
理反応特性（査読付き）			文集、75巻655号、pp.815-820	被験者自身が好む気温となるように調節する実験を実施し、被験者は健康で標準体型の平均70才の高齢男女94名であった。着衣量0.4clo、椅座安静状態にて、120分間気温をちょうど良いように調節した。その結果、好む気温は「やや涼しい」?「どちらでもない」時で、24.3℃?29.3℃の範囲、平均26.9±1.1℃であり、若齢者より高かった。また、選択気温別に群に分けると、低い気温に調節した被験者の躯幹部皮膚温の低さおよび末梢部皮膚温の高さが示された。また、全体的に放熱過多の傾向を示し、特に25℃より低く調節した者に示され、生理反応から25℃より低く調節した群は低すぎると考えられた。
5. 高齢者の個人差を考慮した快適室温の研究（査読つき）	共	2008年03月	住宅総合研究財団研究論文集、No.34、pp.315-325	佐々尚美、磯田憲生、久保博子 被験者自身が好む気温となるように調節する選択気温実験と設定した環境に曝露し生理心理反応を測定する設定気温評価実験を実施した。被験者は健康で標準体型の平均70才の高齢者男女57名であった。着衣量0.4clo、椅座安静状態にて、120分間気温をちょうど良いように調節した。設定気温評価実験では、気温を23℃?33℃の８条件にて60分間曝露した。その結果、低温選択群は高温下にて他群より平均皮膚温は高く、いずれの気温でも他群より舌下温は高く、最高血圧は他群より高い傾向を示した。高温選択群は最も気温の影響を受け平均皮膚温が変化し、下腿皮膚温は低温下で特に他群より高く、最高血圧は最も低く、他群より冷えを感じる傾向を示し、最も体温調節能力の衰えを示した。
6. 省エネルギーの意識と住まい方に関する調査研究（その2）　奈良市近郊のソーラーエネルギー利用住宅を対象とした場合―（査読付き）	共	2005年10月	日本家政学会誌、vol.56,No.10,pp.719-727	佐々尚美、磯田憲生 奈良市近郊のソーラー住宅25邸を対象に、環境問題や省エネルギーに関する意識や、住宅計画時の取り組み、住まい方や光熱費、ソーラーシステム設置の着かけや設置前後の生活の変化、メリット感などのアンケート調査を実施した。その結果、ソーラー住宅居住者は、一般住宅居住者より、省エネ意識が高く、日々の努力が環境保全に役立つと考える割合が高く、省エネな生活を心がけ、光熱費は少なく、情報収集を積極的にしており、現在の生活にメリットを感じていた。
7. 省エネルギーの意識と住まい方に関する調査研究　―奈良市近郊の新興住宅地の戸建住宅を対象とした場合―（査読付き）	共	2003年11月	日本家政学会誌、Vol.54、No.11、pp.935-943	佐々尚美、磯田憲生 奈良市近郊の新興住宅地において新しく住宅を計画・購入した住宅を対象に、環境問題や省エネルギーに関する意識や、住まい方、室内温熱環境評価や光熱費などのアンケート調査を配布し、195件の回答を得た。その結果、省エネ意識が高い者ほど省エネや環境保全に繋がる住宅の工夫を考慮し導入する割合が高く、できるだけ冷暖房に頼らない省エネな住まい方をし、電気ガス代が少なく、特に良く使用する時期に差が見られたが、居住性評価は省エネ意識の有無に関わらず、いずれも評価は堅かった。一つの取り組みが次の取り組みのきかけになる事も示された。
8. 大人と一緒の食事が子どもの食意識・食態度・食知識に及ぼす影響（査読付き）	共	2003年10月	日本家庭科教育学会誌、第46巻第３号、pp.226-233	佐々尚美・加藤佐千子、田中宏子、貴田康乃 大人と一緒の食事が子供の食意識・食態度・食知識に及ぼす影響を検討する為に、一緒に食べる人や健康状態などのアンケート調査を約600名に実施した。その結果、朝食の方が子どもだけでが多く、夕食は大人と一緒の割合が高かった。また、子どもの健康状態は、子どもだけの方が、胃の調子が悪い、下痢、イライラする、やる気がでないなどを訴える割合が有意に高い事が示された。
9. 温熱的生理心理反応の個人差に関する研究　―夏期における設定気温条件の場合―（査読付き）	共	2001年04月	日本建築学会計画系論文集、第542号、pp.35-40	佐々尚美、久保博子、　磯田憲生、梁瀬度子 夏期において気温20℃?32℃の範囲で４段階に設定した人工気候室にて、夏服0.3cloを着用した健康な女子大生29名を椅座安静状態にて120分間曝露させ生理心理反応を測定した。その結果、気温20、24℃において皮膚温に個人差が認められ、特に末梢部に顕著であり、寒い側で同じ温冷感となる平均皮膚温の個人差が大きかった。好む気温別には、高い気温を好む高温群は最も気温の影響を受け、同じ温度を有意に寒い側に評価し、高い気温範囲を快適側に評価するなど、好む気温別に生理心理反応は異なった。生理心理反応の個人差が好む気温別に分けることにより、それぞれ特徴を持った群となる事を示した。
10. 冬期における好まれる気温に関する研究（査読付）	共	2001年03月	日本建築学会計画系論文集、第541号、pp.17-22	佐々尚美、久保博子、　磯田憲生、梁瀬度子 冬期において、室内にて気温を自由に調節できる環境調節室を用いて、夏服0.3cloを着用した健康な女子大生29名（夏期も参加は27名）を椅座安静状態にて、生理心理反応を測定しながら120分間ちょうど良い様に自由に調節する選択気温実験を行った。その

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				結果、好まれる気温時の温冷感は「やや涼しい」?「やや温かい」であるが、気温には8.0℃の差が認められ個人差が大きかったが、夏期も冬期も平均すると27±2℃であった。低温群と高温群の末梢部や平均皮膚温は冬期の方が低い傾向を示し、選択気温時の温冷感は気温はほぼ同じであったが、冬期の方が温かい側に申告し、低温群と高温群の温冷感に季節さが認められた。
11. 夏期における好まれる気温の個人差に関する研究（査読付）	共	2000年05月	日本建築学会計画系論文集、第531号、pp.31-35	佐々尚美、久保博子、 磯田憲生、梁瀬度子 夏期において、室内にて気温を自由に調節できる環境調節室を用いて、夏服0.3cloを着用した健康な女子大生29名を椅座安静状態にて、生理心理反応を測定しながら120分間ちょうど良い様に自由に調節する選択気温実験を行った。その結果、好まれる気温時の温冷感は「涼しい」?「どちらでもない」であるが、気温には7.2℃の差が認められ個人差が大きく、日本の推奨快適気温範囲外に約30%の被験者が調節した。好む気温群別に低温群、中温群、高温群に分けると、好む気温時には平均皮膚温や末梢部皮膚温に差が認められ、放熱量も差が認められた。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1. 夏期における高齢者の寝室温熱環境と睡眠に関する実態調査	共	2014年9月	日本建築学会学術講演梗概集	久保博子・磯田憲生・東実千代・佐々尚美
2. 高齢者の熱中症への意識と夏期に於ける温熱環境の実態調査	共	2014年9月	日本建築学会学術講演梗概集	東実千代・佐々尚美・久保博子・磯田憲生
3. 関西の大学生を対象とした室内空気汚染と健康影響に関する調査 シックハウス症状および関連する知識について	共	2014年9月	日本建築学会学術講演梗概集	萬羽郁子・東賢一・東実千代・佐々尚美・久保博子・五十嵐由利子・磯田憲生
4. 日傘の使用に関する研究 －意識調査アンケートと被験者実験による検討－	共	2014年5月	日本家政学会第66回大会研究発表要旨集	東実千代・佐々尚美・久保博子・磯田憲生
5. 夏期の寝室温熱環境が高齢者と若齢者の終夜睡眠に与える影響（その２）	共	2014年3月	空気調和・衛生工学会近畿支部学術発表会論文集	秋山佳代・久保博子・磯田憲生・東実千代・佐々尚美・亀ヶ谷佳純
6. 省エネルギー意識と日常生活での温熱的快適性に関する実測調査	共	2013年9月	日本建築学会学術講演梗概集	久保博子・東実千代・佐々尚美・磯田憲生
7. 自然共生型住宅地における住環境実測調査　第14報　建築直後からの住まい方および温熱環境の変化	共	2013年6月	平成25年度日本建築学会近畿支部研究発表会	萬羽郁子・東実千代・佐々尚美・久保博子・磯田憲生
8. 室温低下速度の違いが高齢者の生理心理反応に及ぼす影響	共	2013年5月	日本家政学会第65回大会研究発表要旨集	安岡詢子・久保博子・佐々尚美・磯田憲生
9. 夏期における高齢者の日常生活習慣と暑熱対策に関するアンケート調査	共	2013年5月	日本家政学会第65回大会研究発表要旨集	東実千代・岡本啓子・佐々尚美・久保博子・磯田憲生
10. 夏期の寝室温熱環境が高齢者と若齢者の終夜睡眠に与える影響		2013年3月	空気調和・衛生工学会近畿支部学術発表会論文集	亀ヶ谷佳純・久保博子・磯田憲生・東実千代・佐々尚美
11. 省エネルギー意識と日常生活における温熱的快適性に関する実測調査 第２報　大学寮における女子学生の夏期と冬期の比較	共	2013年12月	第３７回人間-生活環境系シンポジウム報告集	久保博子・磯田憲生・佐々尚美・東実千代
12. 夏期の日常生活における温熱環境と生理量の実測調査　（その２）高齢者と若齢者の皮膚温および活動量	共	2013年11月	第３７回人間-生活環境系シンポジウム報告集	東実千代・佐々尚美・都築和代・久保博子・磯田憲生
13. 夏期の日常生活における温熱環境と生理量の実測調査　（その１）高齢者の周囲温と心理量	共	2013年11月	第３７回人間-生活環境系シンポジウム報告集	佐々尚美・東実千代・久保博子・磯田憲生
14. 夏期の日常生活における高齢者の温熱環境 (1)周囲温の実態調査	共	2013年10月	日本家政学会関西支部第35回研究発表会講演要旨集	佐々尚美・東実千代・久保博子・磯田憲生
15. 夏期の日常生活における高齢者の温熱環境 (2)皮膚温および活動量の実態調査	共	2013年10月	日本家政学会関西支部第35回研究発表会講演要旨集	東実千代・佐々尚美・都築和代・久保博子・磯田憲生
16. 生活環境中のにおいに対する意識とにおい関連製品の使用実態-共学・女子大生を対象としたアンケート調査より-	共	2012年5月	日本家政学会第64回大会	東実千代、佐々尚美

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
17. 生活環境中のにおいに対する意識とにおい関連商品の使用実態－大学生を対象とした住まい方・嗜好の違いからの検討－	共	2012年12月	第36回人間-生活環境系シンポジウム報告集	東実千代・佐々尚美
18. 省エネルギーを考慮した快適な温熱環境に関する研究	共	2011年8月	日本建築学会大会梗概集 環境工学Ⅱ	佐々尚美、久保博子、磯田憲生
19. 省エネルギーを考慮した住まい方に関する研究	単	2011年5月	日本家政学会第61回大会研究発表要旨集、p.169	
20. 夏期における扇風機を用いた室内環境調節に関する研究	共	2011年11月	日本家政学会関西支部	佐々尚美、久保博子、磯田憲生
21. The elderly human response under the established air temperature and their preferred air temperature-	共	2011年10月	The Fourth International Conference on Human-Environment System	Naomi SASSA, Hiroko KUBO, Norio ISODA
22. 扇風機を用いた快適な室内温熱環境に関する研究	共	2011年1月	日本生理人類学会第65回大会要旨集、pp.36-37	佐々尚美、久保博子、磯田憲生
23. パソコン作業による疲労の軽減に関する研究ーアイマスクの効果ー	共	2010年11月	人間－生活環境系シンポジウム	佐々尚美,梁瀬度子
24. 暑がり寒がりの好む環境調節に関する研究	単	2009年12月	日本人間工学会　関西支部大会	
25. 環境問題や省エネルギーの意識と住まい方に関する調査	単	2009年11月	第33回人間―生活環境系シンポジウム	
26. 夏期における暑がり・寒がりの好む室内温熱環境調節に関する研究	単	2009年08月	日本建築学会	
27. パソコン作業による疲労の軽減に関する研究―アイマスクを使用した場合―	共	2009年06月	日本人間工学会	佐々尚美、左達秀敏、矢田幸博、梁瀬度子
28. 大学生の環境問題・省エネルギーの意識と住まい方	単	2009年05月	日本家政学会	
29. Study on thermal comfort temperature for the elderly	共	2008年11月	Human - Environment System	Naomi SASSA, Hiroko KUBO, Norio ISODA
30. 夏期における高齢者の個人差を考慮した快適室温	共	2008年10月	日本家政学会関西支部	佐々尚美、磯田憲生、久保博子
31. Experimental Studies on thermal comfort for the elderly in summer	共	2008年07月	International Federation for Home Economics Conference	Naomi SASSA, Hiroko KUBO, Norio ISODA
32. パソコン作業による目の疲労の改善に関する研究―	共	2008年06月	日本生理人類学会	佐々尚美、矢田幸博、土屋秀一、梁瀬度子
33. 冬期における冷え改善に関する実態調査―蒸気温熱シートを使用した場合―	共	2008年05月	日本家政学会	佐々尚美、梁瀬度子
34. 冷え改善に関する研究　― 暖める部位の検討 ―	共	2007年12月	第31回人間ー生活環境系シンポジウム報告集	佐々尚美、梁瀬度子
35. 高齢者の選択・設定気温下における生理・心理反応―冬期における高齢男性の場合―	共	2007年12月	第31回人間ー生活環境系シンポジウム報告集	寺田留美，佐々尚美，久保博子，磯田憲生
36. 高齢者の温熱的特性	単	2007年10月	建築空間における感覚・知覚心理シンポジウム（第４回）　高齢者の感覚・知覚特性について	
37. 暑がり寒がりの温熱的快適性に関する研究	単	2007年08月	日本建築学会大会梗概集 環境工学Ⅱ	
38. 夏期の高齢者男性の選択・設定気温実験における生理および心理反応	共	2007年05月	社団法人日本家政学会第59回大会研究発表要旨集	寺田留美，佐々尚美，久保博子，磯田憲生
39. 冷え改善に関する研究ー身体各部位に蒸気温熱シートを使用した場合	共	2007年05月	日本家政学会第59回大会研究発表要旨集	佐々尚美、梁瀬度子
40. 冷え改善に関する研究	共	2006年12月	日本人間工学会　関西支部大会講演論文集	佐々尚美、梁瀬度子
41. 設定気温下における高齢者の生理・心理反応	共	2006年12月	第30回人間ー生活環境系シンポジウム報告集	寺田留美、久保博子、磯田憲生、佐々尚美
42. 夏期の冷え改善に関する研究ー蒸気温熱シートを使用した場合ー	共	2006年05月	日本家政学会第58回大会研究発表要旨集	佐々尚美、梁瀬度子
43. 冬期における高齢者の至適温熱環境に関する実験的研究-選択気温実験および設定気温実験における	共	2006年	日本建築学会大会梗概集環境工学Ⅱ	衣笠奈々恵、久保博子、佐々尚美、磯田憲生

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
生理・心理反応-				
44. Thermal comfort for the elderly in summer	共	2005年12月	The Third International Conference on Human-Environment System ABSTRACTS	Nanae KINUGASA, Hiroko KUBO, Naomi SASSA, Norio ISODA
45. 高齢者の至適温熱環境に関する実験的研究-高齢者の温熱的個人差と自宅における実測調査の比較検討-	共	2005年12月	日本人間工学会関西支部大会講演論文集	衣笠奈々恵、久保博子、佐々尚美、磯田憲生
46. 青年男女の冷えと日常生活に関するアンケート調査	共	2005年10月	日本家政学会第27回研究発表会講演要旨集	久保博子、長井由佳里、佐々尚美
47. 高齢者の至適温熱環境に関する研究　ーその3．設定気温下における生理・心理反応の季節差についてー	共	2005年10月	日本家政学会第27回研究発表会講演要旨集	衣笠奈々恵、久保博子、磯田憲生、佐々尚美
48. 高齢者の夏期における至適温度範囲に関する実験的研究	共	2005年05月	日本家政学会第57回大会研究発表要旨集	衣笠奈々恵、久保博子、佐々尚美、磯田憲生
49. 電気式床暖房環境における温熱的快適性に関する研究　その1　青年女子の皮膚温および温冷感申告への影響	共	2004年11月	第28回人間―生活環境系シンポジウム	磯田憲生、佐々尚美、天川章史、宮永俊之
50. 住まいにおける環境共生的住まい方に関する研究　その5　ソーラーシステム設置住宅での年間を通した室内温熱環境と住まい方	共	2004年11月	（社）日本家政学会関西支部第26回（通算28回）研究発表会	佐々尚美、磯田憲生
51. 高齢者の選択室温下における生理・心理反応―その2　夏期・冬季の季節差に関する検討―	共	2004年11月	（社）日本家政学会関西支部第26回（通算82回）研究発表会	衣笠奈々恵、久保博子、佐々尚美、磯田憲生
52. ソーラーハウスにおける1年間の住まい方および温湿度環境の実態調査	共	2004年11月	第28回人間―生活環境系シンポジウム	佐々尚美、磯田憲生
53. 高齢者の選択気温下における生理・心理反応―夏期における高齢女性の場合―	共	2004年08月	日本建築学会全国大会	衣笠奈々恵、久保博子、佐々尚美、磯田憲生
54. 高齢者の選択気温下における生理・心理反応	共	2004年08月	（社）日本家政学会第56回大会	衣笠奈々恵、久保博子、佐々尚美、磯田憲生
55. 内装材が室内温熱環境に及ぼす影響	共	2004年06月	ハウスクリマ談話会	佐々尚美、磯田憲生、山本明香
56. ソーラーシステム設置住宅の室内温熱環境と住まい方	共	2003年06月	ハウスクリマ研究ノート　第29号	佐々尚美、磯田憲生
57. 住まいにおける環境共生的住まい方に関する研究　その4　夏期のソーラーシステム設置住宅の室内温熱環境と住まい方	共	2003年05月	（社）日本家政学会第55回研究発表要旨集	佐々尚美、磯田憲生
58. ソーラーシステム設置住宅の温熱環境及び住まい方の実態調査	共	2002年12月	第26回人間-生活環境系シンポジウム	佐々尚美、磯田憲生
59. 住まいにおける環境共生的住まい方に関する研究　その3　冬期のソーラーシステム設置住宅の室内温熱環境の実態	共	2002年11月	（社）日本家政学会第24回研究発表会講演要旨集	佐々尚美、磯田憲生
60. 環境共生的住まい方に関する研究　第2報　-ソーラーハウス居住者の住まい方と室内温熱環境-	共	2002年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集、環境工学Ⅱ	佐々尚美、磯田憲生
61. 環境共生に係る意識や住まい方に関する調査研究　奈良市近郊の新興住宅地の戸建住宅を対象とした場合	共	2002年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集 環境工学Ⅱ	磯田憲生、佐々尚美
62. 気流の体感の個人差に関する実験的研究　夏期における気流閾値について	共	2002年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集 環境工学Ⅱ	久保博子、八木由紀、磯田憲生、佐々尚美
63. 住まいにおける環境共生的住まい方に関する研究　その1　新興住宅地における調査	共	2002年06月	（社）日本家政学会第54回研究発表要旨集	磯田憲生、佐々尚美
64. 住まいにおける環境共生的住まい方に関する研究　その2　ソーラーシステム設置住宅における調査	共	2002年06月	（社）日本家政学会第54回研究発表要旨集	佐々尚美、磯田憲生
65. 環境共生的住まい方に関する研究　第1報　-冬期におけるソーラーハウスの室内温熱環境の実測調査-	共	2002年05月	日本建築学会近畿支部研究報告集第42号・環境系	佐々尚美、磯田憲生
66. 環境共生的住まい方に関する研究	共	2002年	ハウスクリマ研究ノート　第28号	佐々尚美、磯田憲生

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
６．研究費の取得状況				
1. 若手研究（B）　継続	単	2013年		個人差を考慮した環境共生的住まい方に関する研究
2. 若手研究（B）　新規	単	2011年		個人差を考慮した環境共生的住まい方に関する研究
3. 科学研究費補助金学内奨励金	単	2008年		温熱的弱者に適した快適な室内温熱環境に関する研究
4. 若手研究（B）　継続		2007年		温熱的特性に応じた快適な室内温熱環境に関する研究
5. 財団法人　住宅総合研究財団　研究助成	共	2006年6月から2007年10月末日		高齢者の個人差を考慮した快適室温の研究 研究代表者
6. 若手研究（B）　継続		2006年		温熱的特性に応じた快適な室内温熱環境に関する研究
7. 若手研究（B）　新規		2005年		習熟的特性に応じた快適な室内温熱環境に関する研究
8. 科学研究費補助金学内奨励金	単			温熱的弱者に適した快適な室内温熱環境に関する研究

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
	日本建築学会 空気調和・衛生工学会 日本家政学会 日本人間工学会 人間-生活環境系会議